



大木町がめざす
循環のまちづくり

光

循環のまちをつくる取組み



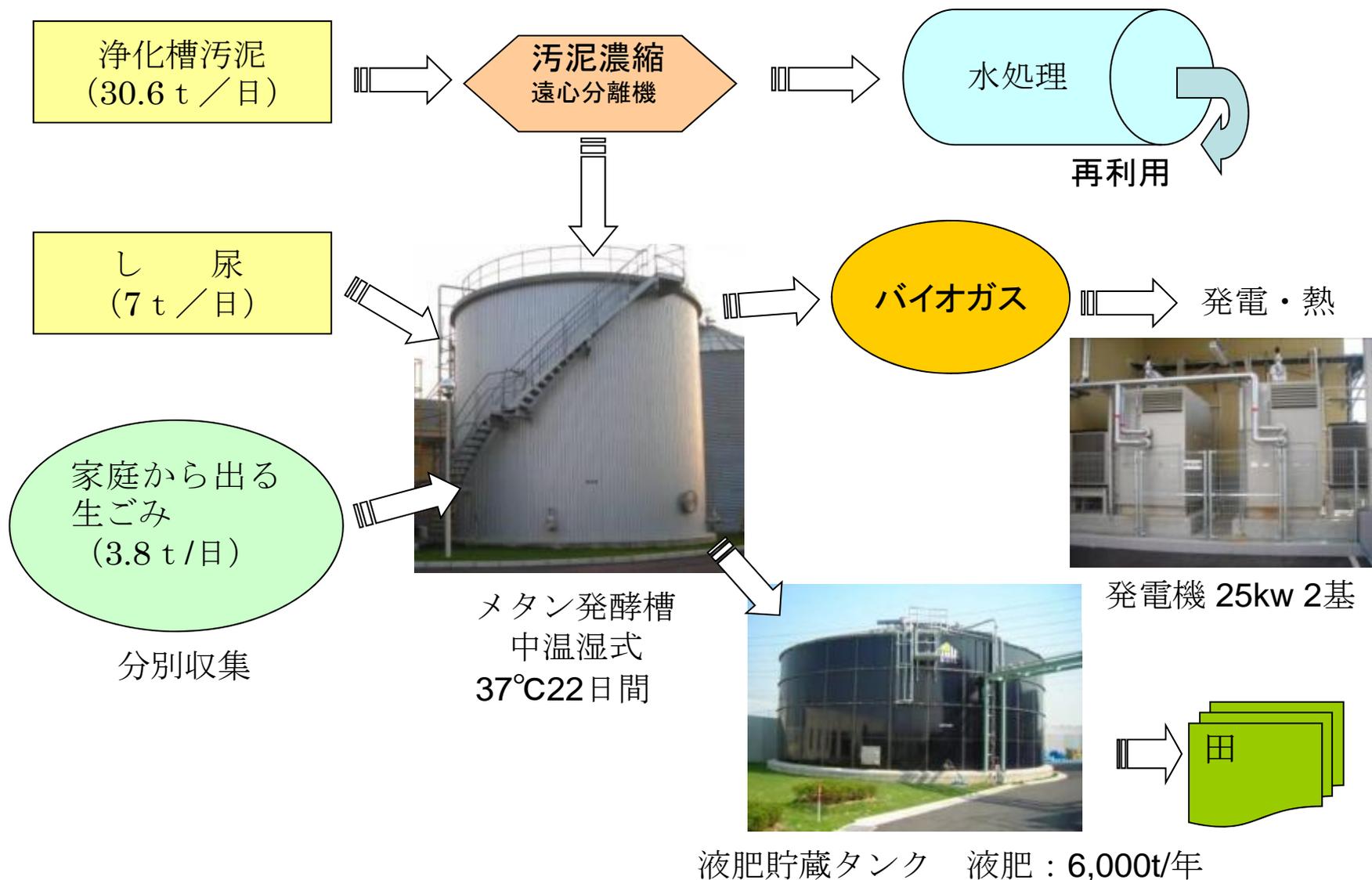
- ゴミを出さない(ゼロウェイスト)まちづくり
 - 08年3月 大木町もったいない宣言公表
- バイオマスの利活用
 - 05年2月にバイオマスタウンに認定される。
 - 生ごみ・し尿・浄化槽汚泥をエネルギーと有機肥料に
～大木町有機資源循環事業、
 - 廃食用油が軽油代替燃料(BDF)に
～菜の花プロジェクト
- 再生可能エネルギーの普及
 - 太陽光発電の普及
 - アクアス地域共同発電所の設立
 - 町内の小学校全校に太陽光発電設備を設置
 - 家庭用太陽光発電設置世帯数は約4%を超える。



おおき循環センター くるるん



バイオガスシステムのフロー



環をつなぐ地域社会システム



生ゴミの分別
家庭の台所・学校
給食で生ゴミを分
別



し尿・浄化
槽汚泥

地元農産物の供給
バイオガス液肥や堆
肥を使った農産物を
給食や家庭の台所へ



循環

発酵させ液肥化
バイオガスプラント
で発酵させ、バイオ
ガスと有機液肥を回
収



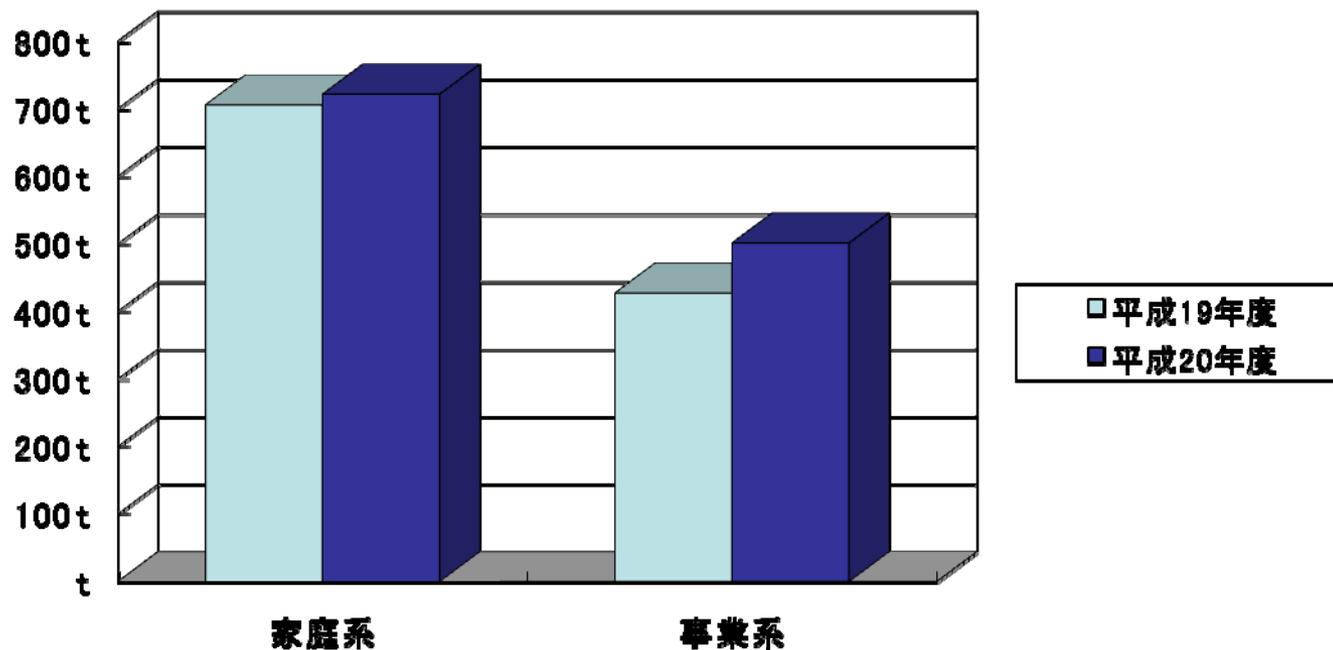
液肥の農地還元
バイオガス液肥を
有機質肥料として
農地へ返す

生ごみ・し尿・浄化槽汚泥を地域資源として循環活用するためには、地域循環を支える社会システムの確立が欠かせない。

生ごみの分別で燃やすごみが44%減る！

年	月	家庭の 生ごみ	事業系 生ごみ	生ごみ 合計	燃やすごみ の量	H.17年度の 燃やすごみ	H. 17年度比
		t	t	t	t	t	%
H20	4月	58.5	41.1	99.6	154.7	264.2	58.6
	5月	60.6	50.3	110.9	154.9	262.3	59.1
	6月	56.9	40.6	97.5	133.4	247.9	53.8
	7月	63.3	40.5	103.8	154.8	252.0	61.4
	8月	69.2	40.6	109.8	133.0	276.3	48.1
	9月	58.2	46.1	104.3	137.0	254.7	53.8
	10月	59.9	46.7	106.6	146.8	240.9	60.9
	11月	55.1	42.1	97.2	123.5	239.4	51.6
	12月	63.7	43.2	106.9	151.9	258.7	58.7
H21	1月	61.8	38.9	100.7	140.4	248.1	56.6
	2月	54.8	35.8	90.6	116.3	215	54.1
	3月	59.4	35.3	94.7	141.9	245.5	57.8
合 計		721.4	501.2	1222.6	1688.6	3005.0	56.2

H. 20の生ごみ分別収集状況



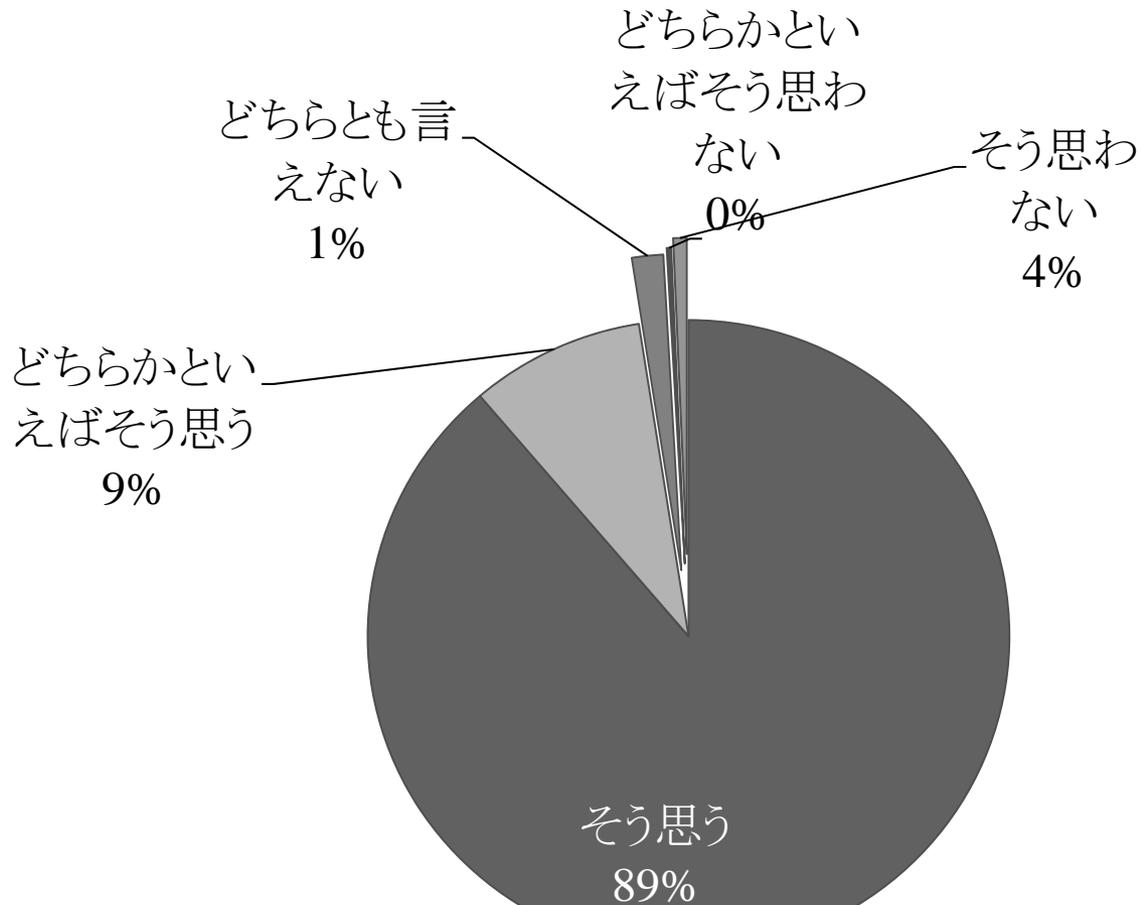
平成19年度家庭系 705.7t → 平成20年度家庭系 721.4t(102.2%)

平成19年度事業系 427.2t → 平成20年度事業系 501.2t(117.3%)

異物混入率(バケツ数)

平成19年度 平均 2.97% → 平成20年度 平均 0.86%

平成20年5月実施アンケート抜粋



これからも生ごみの分別(資源利用)に協力していきたい。

バイオガス液肥 (くるっ肥)を活用する

- 年間約6000tの液肥を生産予定
 - 水稻・麦など土地利用型の作物に使用。
 - 水稻・麦 5t~7t/10a
 - 散布面積 それぞれ約50h
 - 家庭菜園などの使用も急増
- 普通肥料登録として認可
- 液肥代=無料
- 散布料 1000円/10a
(当面は農家との共同研究)
- 液肥利用の課題
 - 貯留と運搬・施肥方法の検討
 - 成分調整と栽培技術(施肥基準など)の確立
 - 臭いはあまり気にならない



分析項目	含有量
リン酸	0.12%
カリ全量	0.11%
全窒素	0.25%
アンモニア態窒素	0.13%

おおき循環センター整備事業

- 整備期間 平成17年度～平成21年度(5年間)
- 総事業費 約11億円
(バイオマスの環づくり交付金 補助率2分の1
町負担分の一部起債・交付税措置あり)
- 事業の内訳
 - 第一期工事(平成17年度～平成18年度)
 - メタン発酵施設(施工、(株)三井造船) 5億1966万円
 - 管理学習施設、バイオの丘(施工、(株)熊丸組) 1億8165万円
 - 外部施設・関連設備など
 - 外部液肥タンク、車庫 約7800万円
 - 液肥散布車両・運搬車両他 約4000万円
 - 第二期工事(平成20年度～平成21年度)
 - 農産物直売所・郷土料理レストラン・交流広場など 約1億9千万円

一般の処理施設に比べて1/3～1/4の建設費

バイオマス資源化による処理費削減効果

	平成17年度		平成20年度		備考
	処理量(t)	負担額(円)	処理量(t)	負担額(円)	
燃やすごみ焼却	3,005	86,457,000	1,689	53,438,000	大川清掃センター
収集		33,576,638		31,680,000	立花商事(H. 17 2回/週 H. 20 1回/週)
し尿等海洋投棄	9,448	64,009,628			福環連へ委託
ごみ処理計	12,453	184,043,266		85,118,000	
生ごみ資源化			1,223	63,753,000	おおき循環センター 生ごみ収集費含む
し尿等資源化			9,946		
資源化計		0		63,753,000	
合計	12,453	184,043,266	12,857	148,871,000	
バイオマス資源化による処理費削減額					35,172,266

処理単価により算出した処理費削減額 41,142,994円

● 大木町もったいない宣言 ●

(ゼロ・ウェイスト宣言)

子どもたちの未来が危ない。

地球温暖化による気候変動は、100年後の人類の存在を脅かすほど深刻さを増しています。その原因が人間の活動や大量に資源を消費する社会にあることは明らかです。

私たちは、無駄の多い暮らしを見直し、これ以上子どもたちに「つけ」を残さない町を作ることを決意し、「大木町もったいない宣言」をここに公表します。

- 1、先人の暮らしの知恵に学び、「もったいない」の心を育て、無駄のない町の暮らしを創造します。
- 2、もともとは貴重な資源である「ごみ」の再資源化を進め、2016年(平成28年)度までに、「ごみ」の焼却・埋立て処分をしない町を目指します。
- 3、大木町は、地球上の小さな小さな町ではありますが、地球の一員としての志を持ち、同じ志を持つ世界中の人々と手をつなぎ、持続可能なまちづくりを進めます。

以上宣言します。

2008年3月11日 大木町議会議決



おおき循環センター

くるるん

ホームページアドレス

<http://kururun.jp>

E - メール

ooki-jinkan@earth.ocn.ne.jp

